

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校 東京スクール・オブ・ビジネス
設置者名	学校法人 Adachi 学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
ビジネス専門課程	オフィスビジネス学科 ビジネスライセンス専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	オフィスビジネス学科 ビジネスコンピューティング専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	オフィスビジネス学科 ビジネス教養専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	フラワービジネス学科 ブライダルフラワー専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	フラワービジネス学科 フラワーショップ専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	フラワービジネス学科 フラワーコーディネーター専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	経営学科 ビジネスマネジメント専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	

	経営学科 流通・マーケティング専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	経営学科 グローバルビジネス専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	経営学科 会計ファイナンス専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	経営学科 宅建・FP専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ビジネスデザイン学科 ビジネスデザイン専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ファッションビジネス学科 アパレルショップスタッフ専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ファッションビジネス学科 ファッションプロデュース専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ファッションビジネス学科 SNS マーケティング専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ITビジネス学科 プログラマー専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	AIシステム学科 AIエンジニア専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	AIシステム学科 データサイエンス専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	スポーツビジネス学科 スポーツマーケティング専攻(2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	スポーツビジネス学科 健康スポーツマネジメント専攻 (2年制)	夜・通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	

	スポーツビジネス学科 スポーツショップ スタッフ専攻 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	スポーツビジネス学科 スポーツ外国語専攻 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	ペットビジネス学科 (2年制)	夜・ 通信	2,280 時間	80×2＝ 160 時間	
	愛玩動物看護学科 (3年制)	夜・ 通信	3,420 時間	80×3＝ 240 時間	
(備考) ・愛玩動物看護学科は2022年度新設学科のため、1、2年生のみの在籍となる。 ・Ⅱ部夜間部のオフィスビジネス科、情報ビジネス科、経営学科、ファイナンシャル科、ビジネス英語科は募集停止中のため、在籍者なし。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

当校の所在地（東京都渋谷区代々木1丁目56-1）事務局にて開講授業科目一覧表を公開。開講授業科目一覧表の中で、教員の実務経験に関する説明とチェック欄あり。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校 東京スクール・オブ・ビジネス
設置者名	学校法人 Adachi 学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HP 掲載の事業報告書 8 ページに記載
<http://www.tokyo-senmon.jp/kokai/pdf/R4jigyohoukoku.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社取締役（現職）	2017. 11. 15 ～2025. 8. 4	ガバナンスの強化
非常勤	株式会社取締役（現職）	2017. 11. 15 ～2025. 8. 4	ガバナンスの強化
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校 東京スクール・オブ・ビジネス
設置者名	学校法人 Adachi 学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画の作成・公表に係る取組の概要) ＜授業計画の作成について＞ 授業計画、並びに各授業科目の作成は、次年度のカリキュラム策定からの経始である。カリキュラムについては、学生授業アンケート、講師ヒアリングの結果、さらには各業界並びに地域社会の職業人に対するニーズを適宜盛り込み、学則に基づく形でカリキュラムポリシーを考証のうえ、毎年調整を行っている。 各授業科目については、はじめに各学科会議でカリキュラムを踏まえた授業科目の設定、講義内容・形式について検証したうえで、学内会議において全体の調整と設定を行っている。その後、各授業科目の担当講師により具体的な授業内容が作成される。各授業科目の担当講師には、学内統一様式でのシラバスの作成と提出を義務付けている。シラバスには「授業科目名」、「授業方法」、「到達目標」、「授業内容」、「評価方法」、「授業計画」、「教科書」の記載項目があり、全科目共通で記載することを必須としている。提出されたシラバスは学内データベースに格納し、一元的に管理している。 ＜公表について＞ 翌年度の授業計画の作成については、12月から着手し、年度最終成績、就職実績、学生アンケートの反映を併せて3月まで調整を行う。3月の学内年度末会議にて授業計画が正式決定となる。学生には4月オリエンテーションにて授業計画を公表・配布する。授業シラバスについては各授業内で授業計画としての説明に用いるとともに、学内データベースに一元管理を行い、必要性に応じて参照に対応している。 ホームページにて、学内事務局に履修要綱(シラバス)閲覧用冊子の常設の旨と、閲覧の手続きを明記し、これを一般に公開している。	
授業計画の公表方法	履修要綱(シラバス)を閲覧用冊子として学内事務局に常設している。 閲覧の手続きについては印刷物を学生に配布。 ホームページにて、閲覧用冊子の常設の旨と、閲覧の手続きを公開している。 https://www.tsb-yyg.ac.jp/disclosure/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学修意欲の把握については、定期的に学生アンケートを実施し、自身が受講している授業科目について、授業の進め方や評価方法に関し、適切であるか否かを含めた意見を集計している。

学内規則の細目にて、学内の成績評価、履修授業数、卒業要件について規定している。成績評価については、各学科で定める授業科目の考查の結果に基づき行われるものである。

以下、学生ハンドブック（学内規則集）抜粋を記載

【成績の評価】

成績評価は教科ごとに行われます。試験点のほか、出席状況、授業中の課題・小テストの評価等、また受講態度などを加味して評価されます。

【単位について】

90 分を 1 コマとし、1 コマの授業科目を修得すると、1 単位として認定します。

【卒業要件】

卒業には、次の条件を全て満たすことが必要です。

- ①卒業認定の規定による単位取得がなされていること。
- ②職業人として社会での役割を果たせる能力・人間的特性をもっていること
- ③所定の学費を完納していること

【卒業に必要な単位数】

原則として必修科目 60 単位（3 年制は 90 単位）とします。ただし、必要単位数の 40% を超えない範囲で、必修科目に替わり、選択科目を単位認定することができます。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ＜成績評価について＞ 学業成績は各学科で定める授業科目の考査の結果によって評価される。各学科の配置科目の多様性への対応と、より公平性の高い指標の運用のため、GPAの設定と運用を行っている。 評点 100点～90点 評価 S 区分 合格 (当該科目の単位を取得) 評点 89点～80点 評価 A 区分 合格 (当該科目の単位を取得) 評点 79点～70点 評価 B 区分 合格 (当該科目の単位を取得) 評点 69点～60点 評価 C 区分 合格 (当該科目の単位を取得) 評点 59点～0点 評価 D 区分 不合格 学期毎に設定された選択科目を除く必修科目(15単位)について、その評価点合計平均を算出し、これを学年全体における成績評価値としている。 必修科目 評価点合計 / 15 = 成績評価値 ＜公開について＞ 成績評価方法については、学内規則に明記するほか、入学時オリエンテーションで学生に周知している。また考査の直前の授業時にも各授業科目の担当講師より説明・周知を行っている。 同内容をホームページで教育情報として一般に公開をしている。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	掲載： ・学生ハンドブック（学内規則集） ・ホームページで教育情報として一般に公開 https://www.tsb-yyg.ac.jp/files/pdf/tsb_evaluation_criteria_2023.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

＜ディプロマポリシー＞

東京スクール・オブ・ビジネスは、近時ますます進展する情報化、グローバル化に伴って、変転してやまない社会に即応できる知識、技能の修得を教育の目標としている。本校の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修し、社会人としてのマナー、国際人としてのコミュニケーション能力を身につけ、混沌とした社会情勢の中で、自己中心的ではなく、周囲と自分との関係を深く思うことができる人材に対して称号を授与する。

以上を当校のディプロマポリシーと策定したうえで、学内規則に明記している。

＜公表について＞

卒業要件については、各学科が定める授業科目の履修に対して規定の単位数の取得を定めている。詳細については学内規則にその明記がなされている。

以下、学生ハンドブック（学内規則集）抜粋を記載

【卒業要件】

卒業には、次の条件を全て満たすことが必要です。

- ①卒業認定の規定による単位取得がなされていること。
- ②職業人として社会での役割を果たせる能力・人間的特性をもっていること
- ③所定の学費を完納していること

【卒業に必要な単位数】

原則として必修科目 60 単位（3 年制は 90 単位）とします。ただし、必要単位数の 40% を超えない範囲で、必修科目に替わり、選択科目を単位認定することができます。

【留年について】

1 年修了時に、総取得単位数が 18 単位未満の者、または必修科目の取得単位数が 6 単位未満の者、該当学年の学費が完納されていない者は、これを留年とします。
2 年修了時に、総取得単位数が 45 単位以上 60 単位未満の者で、必修単位数が 21 単位以上の場合、半期留年とします。また、総取得単位数が 45 単位未満、または必修科目の取得単位数が 21 単位未満の者は、1 年留年とします。

同内容をホームページで教育情報として一般に公開をしている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

掲載：

- ・学生ハンドブック（学内規則集）
- ・ホームページで教育情報として一般に公開

https://www.tsb-yyg.ac.jp/files/pdf/tsb_graduation_certification_2023.pdf

様式第 2 号の 4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第 2 号の 4－①を用いること。

学校名	専門学校 東京スクール・オブ・ビジネス
設置者名	学校法人 Adachi 学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	最新情報を HP にて公表している。 http://www.tokyo-senmon.jp/kokai/pdf/R4taisaku.pdf
収支計算書又は損益計算書	最新情報を HP にて公表している。 http://www.tokyo-senmon.jp/kokai/pdf/R4sonekikeisan.pdf
財産目録	最新情報を HP にて公表している。 http://www.tokyo-senmon.jp/kokai/pdf/R4zaisan.pdf
事業報告書	最新情報を HP にて公表している。 http://www.tokyo-senmon.jp/kokai/pdf/R4jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告（書）	最新情報を HP にて公表している。 http://www.tokyo-senmon.jp/kokai/pdf/R4kansa.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

・オフィスビジネス学科 ビジネスライセンス専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	オフィスビジネス学科 ビジネスライセンス専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1, 800 単位時間	1, 920 単位時間	360 単位時間			
			2, 280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		28 人	0 人	4 人の内数	7 人の内数	11 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 (100%)	0 人 (0%)	16 人 (88.9%)	2 人 (11.1%)
（主な就職、業界等） 不動産総合企業、エネルギー、インフラ建設業、人材業等、主に事務職			
（就職指導内容） 求人紹介（説明含む）、学内説明会開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 秘書技能検定、簿記検定（日商）、ビジネス実務マナー技能検定 ビジネス文書技能検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・オフィスビジネス学科 ビジネスコンピューティング専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	オフィスビジネス学科 ビジネスコンピューティング 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,320 単位時間	960 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		9 人	0 人	5 人の内数	9 人の内数	14 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	2 人 (22. 2%)	3 人 (33. 3%)	4 人 (44. 4%)
（主な就職、業界等） 不動産総合企業、エネルギー、インフラ建設業、人材業等、主に事務職			
（就職指導内容） 求人紹介（説明含む）、学内説明会開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 秘書技能検定、簿記検定（日商）、ビジネス実務マナー技能検定 ビジネス文書技能検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・オフィスビジネス学科 ビジネス教養専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	オフィスビジネス学科 ビジネス教養専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,440 単位時間	840 単位時間			
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		11 人	0 人	4 人の内数	8 人の内数	12 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 不動産総合企業、エネルギー、インフラ建設業、人材業等、主に事務職			
（就職指導内容） 求人紹介（説明含む）、学内説明会開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 秘書技能検定、簿記検定（日商）、ビジネス実務マナー技能検定 ビジネス文書技能検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・フラワービジネス学科 ブライダルフラワー専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	フラワービジネス学科 ブライダルフラワー専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	360 単位時間	480 単位時間	1,440 単位時間		
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		23 人	0 人	6 人の内数	6 人の内数	12 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3 人 (100%)	0 人 (0%)	3 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） フラワーショップ、ブライダル、フューネラル、造園、花卸売他			
（就職指導内容） 就職試験対策、求人企業の紹介、就職・進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） フラワー装飾技能士、華道家元池坊師範免状、サービス接客検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・フラワービジネス学科 フラワーショップ専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	フラワービジネス学科 フラワーショップ専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	420 単位時間	600 単位時間	1,260 単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		15 人	0 人	6 人の内数	6 人の内数	12 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (88.9%)	1 人 (11.1%)
（主な就職、業界等） フラワーショップ、ブライダル、フューネラル、造園、花卸売他			
（就職指導内容） 就職試験対策、求人企業の紹介、就職・進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） フラワー装飾技能士、華道家元池坊師範免状、サービス接客検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	2 人	10.5%
（中途退学の主な理由） 進路変更と怠学が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・フラワービジネス学科 フラワーコーディネーター専攻

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門 課程	フラワービジネス学科 フラワーコーディネーター 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	360 単位時間	480 単位時間	1,440 単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		27 人	2 人	6 人の内数	6 人の内数	12 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	17 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） フラワーショップ、ブライダル、フューネラル、造園、花卸売他			
（就職指導内容） 就職試験対策、求人企業の紹介、就職・進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） フラワー装飾技能士、華道家元池坊師範免状、サービス接客検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	4 人	12.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学習意欲の低下、学校不適応が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・経営学科 ビジネスマネジメント専攻

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門 課程	経営学科 ビジネスマネジメント 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,740 単位時間	540 単位時間			
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
400 人の内数		107 人	37 人	6 人の内数	9 人の内数	15 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
83 人 (100%)	9 人 (10.8%)	55 人 (66.3%)	19 人 (22.9%)
（主な就職、業界等） 士業事務所、不動産、保険、専門サービス、小売、証券、物流、 化学メーカー等他業種			
（就職指導内容） キャリアデザイン（講義、演習）、筆記試験、面接対策、個別面談 正課外ゼミ等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中小企業診断士一次、宅地建物取引士、CFP、AFP、販売士、貿易実務、 簿記検定（日商）他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
165 人	23 人	13.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更が多く、続いて学校不適應、金銭的理由における学業継続困難が主な理由となっ ている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート 体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス 担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早 期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談 を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせ ている。		

・経営学科 流通・マーケティング専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	経営学科 流通・マーケティング専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,860 単位時間	420 単位時間			
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
400 人の内数		30 人	10 人	6 人の内数	7 人の内数	15 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20 人 (100%)	0 人 (0%)	18 人 (90.0%)	2 人 (10.0%)
（主な就職、業界等） 士業事務所、不動産、保険、専門サービス、小売、証券、物流、 化学メーカー等他業種			
（就職指導内容） キャリアデザイン（講義、演習）、筆記試験、面接対策、個別面談 正課外ゼミ等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中小企業診断士一次、宅地建物取引士、CFP、AFP、販売士、貿易実務、 簿記検定（日商）他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37 人	3 人	8.1%
（中途退学の主な理由） 家庭事情による留学生の帰国が多く、続いて怠学が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・経営学科 グローバルビジネス専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	経営学科 グローバルビジネス専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,920 単位時間	360 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
400 人の内数		27 人	15 人	6 人の内数	7 人の内数	13 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 (100%)	3 人 (11.5%)	14 人 (53.8%)	9 人 (34.6%)
（主な就職、業界等） 士業事務所、不動産、保険、専門サービス、小売、証券、物流、 化学メーカー等他業種			
（就職指導内容） キャリアデザイン（講義、演習）、筆記試験、面接対策、個別面談 正課外ゼミ等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中小企業診断士一次、宅地建物取引士、CFP、AFP、販売士、貿易実務、 簿記検定（日商）他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41 人	5 人	12.2%
（中途退学の主な理由） 学校不適應が多く、続いて進路変更、家庭事情が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・経営学科 会計ファイナンス専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	経営学科 会計ファイナンス専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,740 単位時間	540 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
400 人の内数		16 人	1 人	5 人の内数	9 人の内数	14 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21 人 (100%)	1 人 (4.8%)	16 人 (76.2%)	4 人 (19.0%)
（主な就職、業界等） 士業事務所、不動産、保険、専門サービス、小売、証券、物流、 化学メーカー等他業種			
（就職指導内容） キャリアデザイン（講義、演習）、筆記試験、面接対策、個別面談 正課外ゼミ等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中小企業診断士一次、宅地建物取引士、CFP、AFP、販売士、貿易実務、 簿記検定（日商）他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28 人	1 人	3.6%
（中途退学の主な理由） 進路変更が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・経営学科 宅建・FP専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	経営学科 宅建・FP専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,620 単位時間	660 単位時間			
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
400 人の内数		35 人	3 人	5 人の内数	7 人の内数	12 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 士業事務所、不動産、保険、専門サービス、小売、証券、物流、 化学メーカー等他業種			
（就職指導内容） キャリアデザイン（講義、演習）、筆記試験、面接対策、個別面談 正課外ゼミ等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 中小企業診断士一次、宅地建物取引士、CFP、AFP、販売士、貿易実務、 簿記検定（日商）他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	6 人	22.2%
（中途退学の主な理由） 学校不適応と進路変更が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ビジネスデザイン学科 ビジネスデザイン専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	ビジネスデザイン学科 ビジネスデザイン専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,140 単位時間	1,140 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		24 人	1 人	7 人の内数	4 人の内数	11 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） 情報サービス、専門商社、小売、各種メーカー、コンサルタント業 等他業種			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） FP 技能士 3 級、商品プランナー他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11 人	3 人	27.3%
（中途退学の主な理由） 学習意欲の低下が多く、次いで友人関係のトラブルが主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ファッションビジネス学科 アパレルショップスタッフ専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	ファッションビジネス学科 アパレルショップスタッフ 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	720 単位時間	720 単位時間	840 単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人の内数		21 人	0 人	6 人の内数	4 人の内数	10 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） アパレル企業（各種ブランド、セレクトショップ等）			
（就職指導内容） 求人への紹介、学内説明会の開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、 色彩士検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17 人	6 人	35.3%
（中途退学の主な理由） メンタルシックによる学業の継続困難が多く、次いで進路変更、怠学が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ファッションビジネス学科 ファッションプロデュース専攻

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門 課程	ファッションビジネス学科 ファッションプロデュース 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	720 単位時間	720 単位時間	840 単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人の内数		0 人	0 人	0 人の内数	0 人の内数	0 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） アパレル企業（各種ブランド、セレクトショップ等）			
（就職指導内容） 求人の紹介、学内説明会の開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、 色彩士検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ファッションビジネス学科 SNSマーケティング専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	ファッションビジネス学科 SNSマーケティング専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	600 単位時間	960 単位時間	720 単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人の内数		0 人	0 人	0 人の内数	0 人の内数	0 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） アパレル企業（各種ブランド、セレクトショップ等）			
（就職指導内容） 求人の紹介、学内説明会の開催、進路相談他			
（主な学修成果（資格・検定等）） ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、 色彩士検定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ I T ビジネス学科 プログラマー専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	ITビジネス学科 プログラマー専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,920 単位時間	360 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		57 人	26 人	3 人の内数	5 人の内数	8 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4．を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
46 人 (100%)	0 人 (0%)	38 人 (%)	8 人 (17.4%)
（主な就職、業界等） 情報サービス業			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、IT パスポート他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80 人	9 人	11.25%
（中途退学の主な理由） 怠学による単位未修得が多く、次いで進路変更が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ A I システム学科 A I エンジニア専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	A I システム学科 A I エンジニア専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,680 単位時間	600 単位時間			
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		10 人	4 人	2 人の内数	7 人の内数	9 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） 情報サービス業			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、IT パスポート他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ A I システム学科 データサイエンス専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	A I システム学科 データサイエンス専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,860 単位時間	420 単位時間			
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		0 人	0 人	0 人の内数	0 人の内数	0 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） 情報サービス業			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、IT パスポート他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・スポーツビジネス学科 スポーツマーケティング専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	スポーツビジネス学科 スポーツマーケティング 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,320 単位時間	600 単位時間	360 単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		15 人	0 人	6 人の内数	11 人の内数	17 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (100%)	9 人 (0%)
（主な就職、業界等） スポーツメーカー、スポーツショップ、フィットネスクラブ、 スポーツ指導会社他			
（就職指導内容） 就職試験対策、進路相談、求人企業の紹介他			
（主な学修成果（資格・検定等）） リテールマーケティング検定、健康運動実践指導者、 AED 業務従事者認定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18 人	2 人	11.1%
（中途退学の主な理由） 留学生の家庭事情による帰国や学校不適応が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・スポーツビジネス学科 健康スポーツマネジメント専攻

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門 課程	スポーツビジネス学科 健康スポーツマネジメント 専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	1,200 単位時間	480 単位時間	600 単位時間	単位時間	単位時間
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		11 人	0 人	6 人の内数	9 人の内数	15 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	9 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） スポーツメーカー、スポーツショップ、フィットネスクラブ、 スポーツ指導会社他			
（就職指導内容） 就職試験対策、進路相談、求人企業の紹介他			
（主な学修成果（資格・検定等）） リテールマーケティング検定、健康運動実践指導者、 AED 業務従事者認定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	1 人	8.3%
（中途退学の主な理由） 体調不良による学業継続困難が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門課程		スポーツビジネス学科 スポーツショップスタッフ 専攻		○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	1,800 単位時間		1,320 単位時間	600 単位時間	360 単位時間			
				2,280 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
160 人の内数		6 人	0 人	6 人の内数		12 人の内数		18 人の 内数	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）									
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照									
成績評価の基準・方法									
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照									
卒業・進級の認定基準									
（概要） 第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照									
学修支援等									
（概要） 担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。 さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。									

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） スポーツメーカー、スポーツショップ、フィットネスクラブ、 スポーツ指導会社他			
（就職指導内容） 就職試験対策、進路相談、求人企業の紹介他			
（主な学修成果（資格・検定等）） リテールマーケティング検定、健康運動実践指導者、 AED 業務従事者認定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・スポーツビジネス学科 スポーツ外国語専攻

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門 課程	スポーツビジネス学科 スポーツ外国語専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1, 800 単位時間	1, 440 単位時間	480 単位時間	360 単位時間	単位時間	単位時間
			2, 280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		0 人	0 人	0 人の内数	0 人の内数	0 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） スポーツメーカー、スポーツショップ、フィットネスクラブ、 スポーツ指導会社他			
（就職指導内容） 就職試験対策、進路相談、求人企業の紹介他			
（主な学修成果（資格・検定等）） リテールマーケティング検定、健康運動実践指導者、 AED 業務従事者認定他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・ペットビジネス学科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	ペットビジネス学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,800 単位時間	720 単位時間	300 単位時間	1,260 単位時間		
			2,280 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		84 人	3 人	8 人の内数	13 人の内数	21 人の 内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
50 人 (100%)	0 人 (0%)	45 人 (90.0%)	5 人 (10.0%)
（主な就職、業界等） 動物病院、ペットサロン、ペットショップ他			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 安達認定ライセンストリマーC 級、トレーナーC 級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
96 人	7 人	7.3%
（中途退学の主な理由） メンタル不調含め体調不良による修学継続困難が多く、続いて、進路変更、家庭の事情が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多重的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

・愛玩動物看護学科

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
商業実務		ビジネス専門 課程	愛玩動物看護学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	2,700 単位時間	2,700 単位時間	180 単位時間	540 単位時間	単位時間	単位時間	
			3,420 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人の内数		67 人	1 人	4 人の内数	9 人	13 人の 内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照

成績評価の基準・方法

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）

第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照

学修支援等

（概要）

担任教員が科目担当教員と連携を図り、授業における学生の様子、並びに習熟度等のモニタリングと共有を行っている。特に授業初回から三回目にかけてはそれが重点的に行われ、初回からの積極的な授業参加と、早期の授業離脱防止をその目的としている。併せて学生からの希望、または科目担当教員からの要請に応じて、常に面接相談を設定している。学生の興味や必要性によっては、学科横断的に他学科の教員による面談相談が行われる。より学習意欲の高い学生については、勉強会、自主ゼミ等の設定があり、教員の積極的な参加によって対応がなされている。

さらに三人目の担当教員として、キャリアサポートセンター教員との進路面談が恒常的に設定されており、実学的側面からも学修意欲のフォローアップとその向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 動物病院、ペットサロン、ペットショップ他			
（就職指導内容） 求人企業の紹介、就職・進路相談、就職対策他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 愛玩動物看護師、安達認定ライセンストリマーC 級、トレーナーC 級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35 人	5 人	14.3%
（中途退学の主な理由） メンタル不調含め体調不良による修学継続困難が多く、続いて家庭の事情が主な理由となっている。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生一人につき、クラス担任、科目担当教員、キャリアサポート教員の三名でのサポート体制をとっており、生活面、学習面、就職面での多面的な対応を行っている。またクラス担任は日々の出席状況のモニタリングと必要に応じて個人面談を実施することでより早期の問題把握に努めている。進路変更希望者については、学科横断的に複数の教員が面談を行い、学生本人を含めて多角的な視点からの検討を重ねたうえでの判断決定を行わせている。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
オフィスビジネス学科 (2年制)	150,000 円	820,000 円	290,000 円	施設費、教育充実費 他
フラワービジネス学科 (2年制)	150,000 円	820,000 円	290,000 円	施設費、教育充実費 他
経営学科 (2年制)	150,000 円	820,000 円	290,000 円	施設費、教育充実費 他
ビジネスデザイン学科 (2年制)	150,000 円	820,000 円	290,000 円	施設費、教育充実費 他
ファッション ビジネス学科 (2年制)	150,000 円	820,000 円	290,000 円	施設費、教育充実費 他
I Tビジネス 学科 (2年制)	150,000 円	820,000 円	290,000 円	施設費、教育充実費 他
A I システム 学科 (2年制)	150,000 円	820,000 円	290,000 円	施設費、教育充実費 他
スポーツビ ジネス学科 (2年制)	150,000 円	820,000 円	290,000 円	施設費、教育充実費 他
ペットビジ ネス学科 (2年制)	150,000 円	820,000 円	290,000 円	施設費、教育充実費 他
愛玩動物看護 学科 (3年制)	150,000 円	820,000 円	290,000 円	施設費、教育充実費 他
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 令和4年度評価について、学校HPで公開している。 https://www.tsb-yyg.ac.jp/files/pdf/tsb_evaluation_2023.pdf		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校関係者として、有識者、卒業生などを含む学校関係評価委員会を組織し、それぞれの知見を活かした教育目標、学校運営、教育活動等について評価を行っている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
短期大学教員	2023.4.1～2024.3.31	有識者
保険会社勤務	2023.4.1～2024.3.31	卒業生
経営者	2023.4.1～2024.3.31	地域産業代表
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 令和4年度評価について、学校HPで公開している。 「自己点検評価報告書」内 p.5～17 https://www.tsb-yyg.ac.jp/files/pdf/tsb_evaluation_2023.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.tsb-yyg.ac.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H113311300247
学校名	専門学校東京スクール・オブ・ビジネス
設置者名	学校法人Adachi学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		70人	67人	80人
内 訳	第Ⅰ区分	51人	41人	
	第Ⅱ区分	13人	16人	
	第Ⅲ区分	－	－	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				80人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	－	－	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	－	－	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	－	前半期	後半期
	－	－	－

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—	0人	—
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	18人	18人	0人
計	23人	18人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。